

福島市先導的共生社会ホストタウン関連事業

【市全域を対象として実施】

○改正バリアフリー法に基づくマスタープランを策定(2020年度)

◇「誰にでもやさしいまち ふくしま」の実現に向けた取組

差別解消に留まらず、本市独自のバリアフリー化の根拠規定を盛り込んだ新しい共生社会づくり条例を施行(2020年4月)。障がい者等が参画したワークショップを開催し、全庁を横断した施策である「バリアフリー推進パッケージ」に反映させ、事業を展開

○◇官民連携体制の構築とまち歩き点検の実施

学校、企業、自治振興会等約250団体のバリアフリー推進パートナーとともに官民連携してバリアフリーを推進する体制を構築。バリアフリー化を重点的に推進する地区で障がい当事者及びバリアフリー推進パートナー等と年4回程度まち歩き点検を実施し、施策に反映

◇◆バリアフリー出前講座パッケージの取組

2019年度より手話出前講座(年50回、受講者約1,000人)を創設。今後「心のバリアフリー出前講座」や「バリア疑似体験講座」等を追加した出前講座パッケージにより対象範囲を拡充し、実施回数を増やしていく。

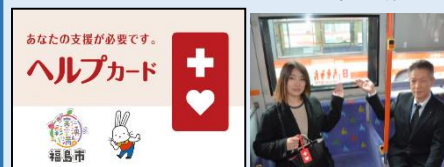
◆ヘルプマーク・ヘルプカード普及推進事業(ヘルプマークステッカーの公共交通優先席への貼付、福島市独自のヘルプカードを作成・配布)

●市施設トイレ洋式化整備計画に基づき、公共施設・観光施設・教育施設のトイレを洋式化(2018~2021年度で洋式化率80%)

○◇官民連携によるまち歩き点検



◆ヘルプマーク・ヘルプカードの普及推進



【障がい者スポーツの普及促進】

◇◆ポッチャ大会の開催

障がいの有無に関わらず老若男女が市内各地域から参加するポッチャ大会を昨年度より毎年開催。併せて、ポッチャ用具の整備や指導者の育成を図る。

◇ポッチャ日本代表選手との交流事業の実施

◇スイス・パラバドミントンチーム事前合宿及び交流事業の実施

【中心市街地(福島駅周辺)】

○防災広場や避難路のバリアフリー化

高齢者や障がい者等の意見を反映し、防災広場と避難路を一体的に整備。(例)防災倉庫の間口拡大



【バリアフリー観光の推進】

○バリアフリー観光情報の発信

温泉地・宿泊施設などのバリアフリー情報を調査し2018・2019年度調査に基づき作成した「観光バリアフリーマップ」と合わせ、ガイドブックを作成

◆「バリアフリーおもてなしガイドブック」を活用したセミナーの開催

○飯坂・高湯・土湯温泉のバリアフリー化の推進(マスタープランの整備対象地区に指定予定)

○南福島駅バリアフリー整備

【市内小中学校を対象として実施】

◆オリパラムーブメントにおける教育推進校によるオリパラ教育の実施

◆「あすチャレ！ School」の開催

(記載凡例)
・目玉事業 → 赤太字

【ユニバーサルデザインの街づくり】
●現在実施中の事業
○今後実施(計画)の事業
【心のバリアフリー】
◆現在実施中の事業
◇今後実施(計画)の事業

